

指導者 T1 ○○ ○○
T2 ○○ ○○
展開場所 体育館

1 単元名 表現運動 ～ 春夏秋冬 ～

2 単元について

(1) 一般的な特性

① 機能的特性

- ・自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動である。
- ・互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

② 構造的特性

- ・個人やグループの持ち味を生かした簡単なひと流れの動きにして、仲間と表したい感じを込めて通して踊る力を培うことができる運動である。

③ 効果的特性

- ・表現運動を楽しく行うために、自己やグループの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、助け合っ
- て踊ったり、互いの動きや考えを認め合ったりすることで、学び合いの力を高めることのできる運動である。

(2) 児童から見た特性

- 多感な児童たちの多様な欲求に応じて表現の楽しさを味わうことができる運動である。
- 探求型の活動を通して、仲間と教え合ったり、励まし合ったり、共感し合ったりできる運動である。
- △自分をさらけ出すことを恥ずかしいと思う児童にとっては、体全体を使って大きな動作をすることが難しい運動である。
- △「できた」ことが明確に自覚しづらい運動である。

(3) 児童の実態 (第5学年 男子○名 女子○名 第6学年 男子○名 女○名、計○名)

		学年	できた あてはまる	ややできた ややあてはまる	ややできない ややあてはまらない	できない あてはまらない
知識・ 技能	ダンス動画を見て踊ることができたか。(観察)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
	曲に合わせて踊ることができたか。(観察)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
思考判断・表現	曲を聞いて即興的に表現できたか。(観察)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
	曲を聞いて発想力豊かに表現できたか。(観察)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
主体的に学習に取り組む態度	体育が好きか。(アンケート)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
	表現運動が好きか。(アンケート)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
	曲に乗って踊るのが好きか。(アンケート)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名
	恥ずかしがらずに表現できるか。(観察)	6年	○名	○名	○名	○名
		5年	○名	○名	○名	○名

第5・6学年の児童は令和3年度から表現活動の研究を始め、今年度で3年目となる。令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため活動に制限があったものの、令和4年度には現5年生が「忍者参上」、現6年生が「私たちの地球」をテーマに表現運動に取り組んできた。事前のアンケートにおいて表現運動が好きかどうかの質問に好き・やや好きと答えた児童は5年生で54%、6年生で75%となった。曲に乗って踊るのが好きかどうかの質問に好き・やや好きと答えた児童が6年生で全員なのに対して、5年生は半数がやや好きでない・好きでないといった傾向にある。これらの児童が表現活動を恥ずかしいと答えていることも分かった。高学年になるにしたがって、恥ずかしいと思う気持ちが強くなるのは自然の事とも考える。その一方で、踊りの動画を見ながら踊る調査を行うと多くの子が徐々に心を開放し、楽しそうに踊ることができた。本単元では恥ずかしさを払拭し、集団の凝集性を生かした授業づくりに取り組んでいきたい。

(4) 指導観

本テーマを学習指導要領「F 表現運動 ア 表現」に示されている「激しい感じの題材」と「群が生きる題材」を参考に、「春夏秋冬」とした。さらに、「題材は人そのものを表現するのではなく、人の気持ちを表現するような題材が効果的である。」という昨年度の実践の成果を理由に、四季を表現するうえで、人の感情の「喜」「怒」「哀」「楽」を表現、伝えることとした。『春』では「喜」、『夏』では「怒」、『秋』では「楽」、そして『冬』では「哀」を伝える意識を持たせることにより、よりよい動きを想起させることに加え、表情にまで意識を払えるようにしていきたい。また、教師側としては、本校の研修で培ってきた「4つのくずしを意識した言葉かけ」が友達と関わる楽しさをよりいっそう味わうことができるように支援していきたい。さらに前年度同様、話し合い活動を活発化させ、みんなで作り上げていく楽しさを味わわせていきたい。

そこで本単元では次のことに留意して指導していきたい。

- ・ 人の気持ちを表す[喜怒哀楽]を表現することにより、話し合いの場での動きのイメージの伝え合いが、鮮明に、さらに顔の表情まで意識して動作化できるようにする。
- ・ 国語科「春はあけぼの」の単元の発展として、北佐原小版「枕草子」を児童と作成し、各季節を表現する場面に作成した詩を朗読することにより、各季節の共有イメージをより具現化できるようにする。

作成した「枕草子」の概要は以下の通り。

- ①『春』では、桜の開花までの様子や散り始める満開の様子から「喜」を表現すること。
 - ②『夏』では入道雲が発生し、大粒の雨が一気に降りだすゲリラ豪雨の様子から自然の「怒」を表現すること。
 - ③『秋』は稲穂の様子や秋の収穫を喜ぶ祭りの様子から「楽」を表現すること。
 - ④『冬』は雪が降る自然の静けさの様子から、別れ等の「哀」を表現しつつ、一連の流れで「哀」から「希望」へと変化する表現活動を取り入れること。
- ・ 児童を等質の3つに分け、春の場面、夏の場面、秋の場面のいずれかを担当とすること、また、冬の場面だけは3グループがそれぞれで考えた流れを同時に表現することにより、①仲間意識の向上を図り、②「ふかめる」場面を充実させ、③グループ間の競争意識を持たせ、④少人数による話し合い活動の有効性をより高められるようにする。
 - ・ 4つのくずし（「空間のくずし」、「体のくずし」、「リズムのくずし」、「人間関係のくずし」）を動きの着目点として、即興表現の動きを改善・工夫する知識として定着させていく。
 - ・ 表現活動を実施する際に流す曲を、5年生の選曲とし、意欲の向上に向けた一助とする。
 - ・ 話し合いの場面や全体の動きを形作っていく場面で、全体をリードする活躍（表したい内容や踊りの特徴を思考し、他者に伝え、仲間を導く活躍）を見せた児童を「今日の主役」として認定する。毎授業のまとめに児童が選ぶことにより、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わわせることができるようにする。
 - ・ 単元の終わりに学習の発表会を位置づけ、本校の保護者に披露することにより互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わう経験をより豊かなものにする。

3 単元の目標

- いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができるようにする。(知識及び技能)
- 自己のグループの課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んだりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 表現することに積極的に取り組み、互いの良さを認め合い助け合って踊ることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで、即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ろうとしたりしている。	自己やグループの課題に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	運動に積極的に取り組み、互いの良さを認め合い助け合って踊ったり、場の安全を確かめたりしている。
単元の評価規準	① 表したい感じを言ったり書いたりしている。 (学習カード) ② テーマの主な特徴を捉え、ひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 (観察) ③ テーマの主な特徴を捉えた表現ができるように「はじめ-なか-おわり」の構成を工夫して踊ることができる。 (観察・学習カード)	① テーマの特徴を捉えた表現となっているか、グループの仲間や他のグループの動きを見て、自己やグループの課題を見つけている。 (観察) ② テーマの特徴を捉えたよりよい表現とするため、工夫している。 (観察)	① テーマの特徴を捉えたよりよい表現にしようと積極的に取り組もうとしている。(観察) ② 互いの動きや考えの良さを認め合おうとしている。 (学習カード・観察) ③ グループで取り組む際に、仲間と助け合おうとしている。 (観察) ④ 場の安全を確かめている。 (観察)

5 指導と評価の計画

	1	2	3(本時)	4	5	6	7
	オリエンテーション1 ・学習内容の確認 ・グループ作りと「春夏秋冬」をテーマに作られた詩をもとにしてイメージを広げる ・学習の大きな流れの確認	本時のねらい(学習課題)の確認					
		グループごとに分かれて、担当する季節を、感情を豊かに、 ①即興で踊る。 ②紹介し合い、良さや課題を見付ける。 ③ひと流れの動きにして思いのままの踊りを楽しむ。	グループごとに分かれて、担当する季節を、感情を豊かに、 ①即興で踊る。 ②よりよい動きを求めて話し合い、まとめていく。 ③ひと流れの動きにして思いのままの踊りを楽しむ。	グループごとに、作成した踊りを他のグループに見せる。 ②他のグループの発表を見て、自分たちの動きをより良いものにしようと話し合う。 ③ひと流れの動きにして思いのままの踊りを楽しむ。	「冬」の場面をグループごとに ①即興で踊る。 ②紹介し合い、良さや課題を見付ける。 ③ひと流れの動きにして思いのままの踊りを楽しむ。	「冬」の場面をグループごとに作成してきた踊りを発表し、 ①全体で表現する良さや課題を見付ける。 ②四季の通し練習を行い、発表への意欲を高める。	発表会に参加する。
知		②観察①学習カード	③観察・学習カード				③観察・学習カード
思				①観察		②観察②学習カード	
態	④観察						③観察・学習カード

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

6 本時の指導(3/7)

研究仮説(2)

他者とかかわる必要性のある場面を意図的に仕組み、互いの良さを認め合ったり、励まし合ったりする活動を取り入れれば、自ら課題を見つけ、課題を解決する児童が育つであろう。

本時はグループごとに、既習の4つの「くずし」や「喜」「怒」「哀」「楽」を活かしながら「春夏秋冬」をイメージして「はじめ-なか-おわり」を基本に表現していく活動である。広げ、深める場面における主体的で対話的な話し合いを通じて表現運動を行うことにより、よりよく、踊る楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

(1) 目標

○題材の特徴や感じの捉え方を理解しているとともに、それをひと流れの動きにしてグループで表現ができるようにする。 【知識・技能】

◎特徴を捉えた動きや変化のある動きなど、よかったところを仲間に伝えている。 【思考・判断・表現】

○運動の行い方の決まりを守り、仲間と励まし合って練習や発表、交流をしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

過程	時間	学 習 内 容 と 学 習 活 動	指導・支援(○)、評価(☆)	用具 資料
は じ め	7 分	1 集合、整列、挨拶をする。 2 ほぐしの運動(準備運動)を行う。	○体全体を使って自由に踊るように促す。(T1・T2) ○恥ずかしさを払しょくし、心を開放して楽しく表現活動できるよう、曲や音量、場所、広がり、雰囲気配慮し、教師も一緒に踊る。(T1・T2) ○児童の動きを誘発する曲を使用して意欲を高める。	・CD ・スピーカー
な か	30 分	3 本時の目標を確認する。 仲間の良さを生かして、「はじめ-なか-おわり」を感じられる簡単なひと流れの動きを、みんなでつくって楽しもう。 ○本時のねらいを確認する。 4 グループごとにひと流れの動きを楽しむ。 5 よりよい表現方法を話し合う。 ○担当する季節のイメージをもとに、「はじめ-なか-おわり」それぞれについて改善点を話し合い、キーワードを共有ボードに書く。 ・一番盛り上げたい場面の動きを中心に言葉にする。 ○はじめ-なか-おわりの順に構成を確立していく。 ・特徴・ふさわしい動き、感情、4つのくずしに留意して、表現する方法を考え伝え合う。 ○改善点を試しに動いたり見あったりして、理解しあう。 6 「ラスト1回」を演じて、楽しむ。	○前時までに積み上げてきた掲示物を活用して、本時のねらいを確認できるようにする。(T1・T2) ①4つのくずしが書かれた掲示物 ②1番盛り上げたい場面を表現したキーワードが書かれた掲示物 ○児童が主体となって話し合いを進められるよう児童の思いを引き出す。(T1・T2) ○良い提案を後押ししたり、発言者を称賛したりする。(T1・T2) ○グループで表現しているよい点を声かけする。(T1・T2) ○簡単なひとまとまりの動きにできない場合、以下の支援をする。 ①できるところまでを通して踊る。 ②見る者を決めて考える。 ③既習事項に立ち戻って話し合う。 ④感情が表れているか、確認しあう。 ☆ 特徴を捉えた動きや変化のある動きなど、よかったところを仲間に伝えている。【観察・学習カード】 ○話し合いの成果や集団表現の良さ、個の成長を見つけ、称賛し、自己有用感や達成感を味わわせる。(T1・T2)、	・学習カード 掲示物 ・CD ・スピーカー
ま と め	8 分	7 本時の振り返りを行う。 ○楽しさを味わうためのコツを発表する。 8 次時の活動内容とねらいを確認する。	○授業の振り返りを記入するように促す。(T1) ○優れた改善点や活躍していた児童を紹介する。 ○けがをしていないか確認をする。(T1) ○次時の学習内容を伝え、意欲の向上を図る。	・学習カード